

日々の田高（２年生 総合的な探究の時間 フィールドワーク）

１１月１２日（水）２年生は、総合的な探究の時間の一環として、フィールドワークの時間をとりました。

これは、各自が進めているテーマに向けて、実際に現場に赴くためです。

自分の探究テーマに関わる博物館や大学、事業所、店舗などに行き各自のテーマを幅広い視点から見つめ直したり、より深く考えたり、テーマに関わる人にインタビューして、自分の立てた仮説について検証を進めていきます。

とはいえ、高校生が、自分で対象となる機関や事業所にアポイントを取り、お話を伺う日時の調整をすることや、実際にお話を伺うことは、とても緊張します。

当日、フィールドワークから帰ってきた生徒何人かに話を聞くと、自分が考えていたテーマにドンピシャのことではなかったが、テーマの周辺の話を知ってより幅広い視野から捉え直せたと話す生徒や自分のテーマについて研究されている方からじっくりお話を伺えたと話す生徒など、目を輝かせていました。

中には、子どもがどのようなことに関心を持っているのか調べるために、国立科学博物館に訪問した生徒は、思いがけず小学生の校外学習と重なり、子どもたちの関心がある項目などを観察できたとのことでした。子供たちは、震源地を推理する展示に群がっていたとのことでした。

今回のフィールドワークで得た考えや知見をどのように、自分のまとめに仕上げていくかがポイントです。



【左】橋の構造を大きなテーマとして、地震や自然災害に強くコストにも優れた構造の橋を作りたいと探る生徒。シミュレーションソフトで、試行錯誤していると話してくれました。

【右】英語学習とRPGゲームを組み合わせることで、英語学習にどのような影響があるかをテーマとしている生徒。
もともとプログラミングが好きで、英語学習と以前に作成したRPGゲームのエッセンスと組み合わせたいと制作しています。現在は、一行一行、動作の検証しているとのことでした。

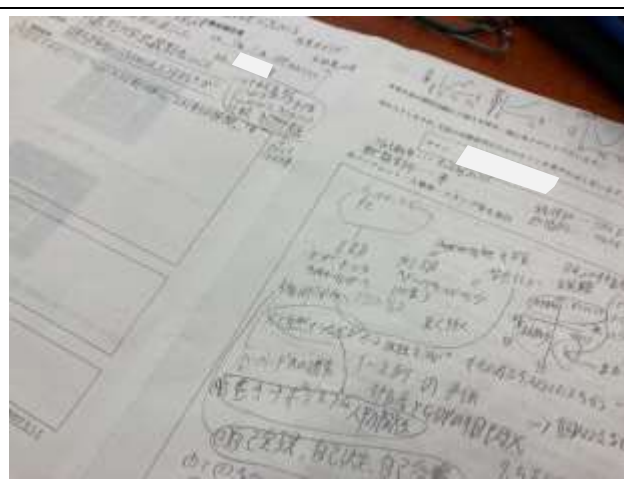


私たちが生活で使う上水道。川から多くの水を取水すると、川の水質にどのような影響があるのかをテーマにしている生徒。

もともとは、学校近くの浄水場を訪問する計画を立てていましたが、先方の人員の都合もあり断念。水の科学館を訪問して、水道水の水質を70か所で計測していることなど、全般的にとらえることができたと話してくれました。



文字フォントの違いが人に与える影響をテーマとして、「市谷の杜 本と活字館」を訪問した生徒。自分のテーマと合致はしなかったそうですが、活字から書体（フォント）に至る流れ、書体にもそれぞれ目的があることを知り、自らのテーマの下支えができたと話してくれました。



日本人が幸福となるためにはどうすればいいか、をテーマとした生徒は、ウェルビーイングという言葉から、武蔵野大学に連絡をして、研究を進める教授さんにアポイントを取り、大学を訪問しました。当初の時間よりも大幅に時間を割いてくださり、幸福に関する自分のテーマについて、周辺部から本質まで深く考えることができたと話してくれました。

上記の他にも、手話についてのテーマ設定をしている生徒は、スターバックスコーヒーの国立 nonowa 店を訪問。数学についてのテーマを設定している生徒は、東京理科大学。睡眠をテーマにしている生徒は、学校近くの島忠ホームセンターの寝具売り場に行くなど、生徒たちは思い思いに行動をしていました。